

陸連時報 三

2019
平成31年

2 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

2019年度主要競技会日程(案).....	230
2019年 年頭にあたって(会長 横川浩).....	231
理事会報告.....	232
第215回国際陸上競技連盟(IAAF)及び第90回アジア陸上競技連盟(AAA)カOUNシル会議報告 (会長 横川浩).....	234
2018年度 全国強化責任者会議.....	235
2018-2019ダイヤモンドアスリート認定式及び修了式及び第1回リーダーシッププログラム 報告 (ダイヤモンドアスリートコーディネーター 田原陽介).....	236
国際陸連(IAAF) Motor Learning and controlling in Athletics seminar 参加報告 (普及育成委員会普及政策部 森健一).....	238
IAAF世界リレー 2019横浜大会 IAAF視察報告.....	239
JAAFアスレティックス・アワード2018報告.....	240
施設用器具委員会報告(2018-2).....	241
大会観戦ガイド.....	243
陸協NEWS.....	244
事務局からのお知らせ.....	246

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

2019年度 主要競技会日程(案)

※主要競技会日程は、2019年3月の理事会で最終承認されます。

主催・共催競技会			主要競技会			国際競技会						
期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所				
4月	14(日)	103日本選手権50km競歩	石川	14(日)	GP金栗記念選抜中・長距離	県民総合(熊本)	21(日)~24(水)	23アジア陸上競技選手権	ドーハ(カタール)			
	21(日)	21長野マラソン	長野	20(土)~21(日)	GP出雲陸上	県立浜山公園(島根)						
5月	19(日)	ゴールデングランプリ	ヤマスタジアム長屋(大阪)	3(金・祝)	GPP静岡国際陸上	エコパ(静岡)	11(土)~12(日)	IAAF世界リレー	横浜国際総合(神奈川県)			
	19(日)	103日本選手権男女10000m	ヤマスタジアム長屋(大阪)	4(土・祝)	GPゴールデングেমズinのべおか	延岡(宮崎)						
	65全日本中学通信陸上	各地	5(日・祝)	GP水戸招待陸上	Kスタ水戸(茨城)							
6月	8(土)~9(日)	103日本選手権混成	長野市営(長野)	6(月・祝)	GP木南道孝記念	ヤマスタジアム長屋(大阪)	4(火)	アジアグランプリ①	重慶(中国)			
	8(土)~9(日)	35U20日本選手権混成	長野市営(長野)	7(金)~9(日)	GP布勢スプリント	布勢総合(鳥取)				7(金)	アジアグランプリ②	重慶(中国)
	27(水)~30(日)	103日本選手権	博多の森(福岡)	7(金)~9(日)	'19日本学生個人	Shonan BMW スタジアム平塚(神奈川)				15(土)	6日中韓3カ国交流	全泉(韓国)
8月	4(日)~8(木)	72全国高校陸上	沖縄県総合(沖縄)	7(日)	GP南部記念陸上	厚別(北海道)	23(金)~29(木)	27日・韓・中ジュニア交流競技会	長沙(中国)			
	9(金)~11(日)	54全国定通制高校陸上	駒沢(東京)	27(土)	59実業団・学生対抗	Shonan BMW スタジアム平塚(神奈川)				30	ユニバーシアード	ナポリ(イタリア)
	調整中	35全国小学生陸上	調整中	4(日)	44蔵王坊平クロスカントリー	上山(山形)				23(金)~29(木)	27日・韓・中ジュニア交流競技会	長沙(中国)
	17(土)~18(日)	54全国高専陸上	広域公園(広島)	25(日)	'19北海道マラソン	北海道						
	20(火)~23(金)予定	46全国中学陸上	ヤマスタジアム長屋(大阪)	12(木)~15(日)	88日本学生対校	長良川(岐阜)						
31(土)~9(日)予定	7全国高校陸上選抜	ヤマスタジアム長屋(大阪)	14(土)~16(月・祝)				40全日本マスターズ	正田醤油スタジアム(群馬)				
9月	15(日)	マラソングランドチャンピオンシップ	東京	20(金)~22(日)	67全日本実業団	ヤマスタジアム長屋(大阪) / ヤマスタジアム長屋(大阪)	27(金)~10(日)	17世界陸上競技選手権	ドーハ(カタール)			
	4(金)~8(火)	74国民体育大会	笠松運動公園(茨城)	14(月・祝)	31出雲全日本大学選抜駅伝	島根	調整中	17アジアマラソン選手権	中国内(予定)			
11(金)~13(日)	50ジュニアオリンピック	等々力(神奈川県)	20(日)	GP田島記念陸上	維新百年記念(山口)							
18(金)~20(日)	35U20日本選手権	広域公園(広島)	26(土)~27(日)	GP北九州陸上カーニバル	北九州市本城(福岡)							
18(金)~20(日)	13U18日本選手権	広域公園(広島)	27(日)	58全日本50km競歩高島	山形							
10月	26(土)~27(日)	103日本選手権リレー	北九州市本城(福岡)	27(日)	37全日本大学女子駅伝	宮城	調整中	17アジアマラソン選手権	中国内(予定)			
	11月			3(日)	51全日本大学駅伝	愛知・三重						
				10(日)	35東日本女子駅伝	福島						
				17(日)	9神戸マラソン	兵庫						
24(日)				39全日本実業団女子駅伝	宮城							
12月	1(日)	73福岡国際マラソン	福岡	1(日)	9大阪マラソン	大阪	調整中	20世界室内選手権	南京(中国)			
	8(日)	5さいたま国際マラソン	埼玉	8(日)	'19長崎陸協競歩	県立総合(長崎)						
	8(日)予定	22小学生クロスカントリーリレー	万博記念公園(大阪)	15(日)	50防府読売マラソン	山口						
	15(日)	27全国中学駅伝	希望が丘(滋賀)	15(日)	38山陽女子ロードレース	岡山						
	22(日)	7031全国高校駅伝	京都	30(月)	'19全日本大学女子選抜駅伝	静岡						
2020年1月	12(日)	38都道府県対抗女子駅伝	京都	1(水・祝)	68元旦競歩	東京	調整中	24世界ハーフマラソン選手権	グディーンヤ(ポーランド)			
	19(日)	25都道府県対抗男子駅伝	広島	1(水・祝)	64全日本実業団対抗駅伝	群馬						
2月	26(日)	39大阪国際女子マラソン	大阪	26(日)	'20大阪ハーフマラソン	大阪	調整中	24世界ハーフマラソン選手権	グディーンヤ(ポーランド)			
	1(土)~2(日)	'20日本室内陸上大阪	大阪城ホール(大阪)	2(日)	69別大マラソン	大分						
	9(日)	5全国中学生クロスカントリー	希望が丘(滋賀)	2(日)	74香川丸亀国際ハーフマラソン	香川						
				9(日)	60唐津10マイル	佐賀						
	16(日)	103日本選手権20km競歩	兵庫	9(日)	48実業団ハーフマラソン	山口						
	22(土)	103日本選手権クロスカントリー	海の中道海浜公園(福岡)	9(日)	31全日本びわ湖クロスカントリー	希望が丘(滋賀)						
	22(土)	35U20日本選手権クロスカントリー	海の中道海浜公園(福岡)	16(日)	54青梅マラソン	東京						
16(日)	103日本選手権20km競歩	兵庫	16(日)	'20熊本マラソン	熊本							
3月	1(日)	'20東京マラソン	東京	8(日)	23日本学生ハーフマラソン	東京	13(金)~15(日)	'20世界室内選手権	南京(中国)			
	調整中	'20名古屋ウィメンズマラソン	愛知	15(日)	14日本学生20km競歩	石川	15(日)	アジア陸上競技選手権・20km競歩	能美(石川)			
	調整中	75びわ湖毎日マラソン	滋賀	15(日)	23日本学生女子ハーフマラソン	島根	調整中	24世界ハーフマラソン選手権	グディーンヤ(ポーランド)			
15(日)	44全日本競歩能美	石川	15(日)									

★=後援競技会、○=協力団体主要競技会

※アジア室内選手権 日程/場所(未定)

2019年 年頭にあたって



新年、明けましておめでとうございます。

新しい年、2019年を迎え、心新たに多くのアスレティックファミリーの皆さまとともに、来る2020年東京オリンピック・パラリンピック、そしてその先の未来へ、輝き続ける日本の陸上競技界を創り上げていきたいと考えております。

昨年、スポーツ界はスポーツ・インテグリティを脅かす事案が多く発生し、社会問題となりました。問題意識として各NF皆そうであると思いますが、私どもも勿論この問題は団体の存続と将来の展開に極めて重要な問題であるという認識を持っております。国、社会の声を一生懸命把握するよう努力しており、自ら行動で示して周囲に納得してもらうことは、我々がやらなければならない努めです。一昨年、「JAAF VISION 2017」を発表し、いま改めて、陸上競技の価値を問い、トップアスリートが活躍し国民に夢と希望を与える国際競技力の向上、すべての人がすべてのライフステージにおいて陸上競技を楽しめる環境をつくるウェルネス陸上の実現、という2つのミッションを掲げました。大きな幹のもと、現在、枝葉を広げる作業を進めております。そのなかには、ガバナンスの強化、組織の向上に取り組むべきことも含まれております。本連盟の活動は、する人、見る人、支える人、すべての人にとって魅力ある場であるべきであり、確実な一歩を踏み出してまいります。

2018年のシーズンを振り返ると、まず挙げられるのが、男子マラソンにおける輝かしい二つの日本新記録の誕生です。一つは、設楽悠太が16年振りに樹立した2時間6分11秒、もう一つは、大迫傑が日本人選手初の2時間5分台を樹立した2時間5分50秒。国際舞台での活躍を夢見て競技に取り組んでいる多くの若いアスリートに勇気と活力を与えてくれました。夏のジャカルタ2018アジア競技大会では、6つの金メダルを勝ち得、5月の世界競歩チーム選手権においては史上初となる2つの団体優勝を果たすなど、世界に注目された「TEAM JAPAN」を継承し、日本陸上競技界は更なる挑戦をしております。

そして、北京、リオで銀、ジャカルタではアジアの頂点にたった男子4×100mリレーは、世界の舞台が日本にやってきます。本年5月、横浜で開催されるIAAF世界リレーでの活躍が東京2020への道筋となります。多くの種目で、新たな次元に果敢にチャレンジし、今まで越えられなかった壁を打ち破り、ドーハ2019世界陸上競技選手権を経て、東京2020を自分達のステージに致しましょう。

これから世界へ羽ばたくアスリートを育成することは、私たちの重要な使命です。去る11月に、「競技者育成指針」を完成させ、公表致しました。この競技者育成指針は、一人でも多くの人が陸上競技を楽しみ、そして、かわり続けていけるようにするために、陸上競技の普及と競技者の育成・強化の両面を見据え、日本における陸上競技者育成の方向性を具体的に示したものです。更に、日本が世界の舞台で活躍するためには、アスリートのみならず指導者が国際的な経験や指導力を身に付けることが喫緊の課題と考えております。指導者は、陸上競技の裾野の拡大やジュニア・ユース競技者の育成、トップレベルの強化など、あらゆる場面で欠かせない存在です。育成の土壌を育み、競技全体の底上げが、未来を照らす光へとつながります。

日本は東京2020を控え、世界のスポーツ界から、スポーツの価値をレガシーとしてどのように残せるか注目されております。本連盟は、世の中の流れに対応し、陸上競技界を牽引する役割を果たすため、国際陸上競技連盟とともに組織力を更に充実させていき、スポーツの振興はもとより、日本陸上競技界の根本を支えて頂いている加盟団体、協力団体をはじめとする地域や関連団体との連携をより進め、アスリートも含めた多くの関係者とともに歩み、環境保全や社会貢献への積極的な取り組みも続けてまいります。

今一層、皆様のご理解、ご支援をお願いいたしましてご挨拶いたします。

公益財団法人日本陸上競技連盟
会長 横川 浩

理事会報告

第52回理事会

日時：2018年12月17日（月） 13時26分～15時35分
場所：ザ・プリンスパークタワー東京 地下2階 コンベンションホール
【議事内容】

出席者25名にて、理事会の成立を風間事務局長が報告。横川会長が挨拶を行い、引き続き、議事進行に入る。

〈報告事項〉

1. 2019年度主要競技会日程

尾縣専務理事より、資料に基づき説明があり、2019年度主要競技会日程が承認された。

（本号230頁及び本連盟WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/pdf/competition/2018calendar.pdf>参照）

2. 日本陸上競技選手権大会混成競技／U20日本陸上競技選手権大会混成競技の今後の開催について

尾縣専務理事より、資料に基づき説明があり、2020年度、第104回日本陸上競技選手権大会混成競技／第36回U20日本陸上競技選手権大会混成競技として、主管、長野陸上競技協会、開催地、長野市宮陸上競技場が承認された。

3. 日本陸上競技選手権リレー競技大会の今後の開催について

尾縣専務理事より、資料に基づき説明があり、2020年度、第104回日本陸上競技選手権リレー競技大会として、主管、福岡陸上競技協会、開催地、北九州市本城陸上競技場が承認された。

4. 第103回日本陸上競技選手権大会男女10000mの別開催について

尾縣専務理事より、資料に基づき説明があり、第103回日本陸上競技選手権大会の競技種目の中で、男女10000mを2019年5月19日（日）、ヤンマースタジアム長居で開催することが承認された。

5. 第103回日本陸上競技選手権大会参加資格

麻場強化委員長より、資料に基づき説明があり、第103回日本陸上競技選手権大会の参加資格が承認された。

（資料1参照）

6. 第103回日本陸上競技選手権大会・混成競技参加資格

麻場強化委員長より、資料に基づき説明があり、第103回日本陸上競技選手権大会・混成競技の参加資格が承認された。

（資料2参照）

7. ドーハ2019世界陸上競技選手権大会

トラック&フィールド種目日本代表選手選考要項

麻場強化委員長より、資料に基づき説明があり、ドーハ2019世界陸上競技選手権大会トラック&フィールド種目日本代表選手選考要項が承認された。

（本連盟WEBサイト https://www.jaaf.or.jp/files/upload/201812/18_144136.pdf参照）

8. IAAF世界リレー 2019横浜大会日本代表選手選考要項

麻場強化委員長より、資料に基づき説明があり、IAAF世界リレー 2019横浜大会日本代表選手選考要項が承認された。（本連盟WEBサイト https://www.jaaf.or.jp/files/upload/201812/18_145851.pdf参照）

9. 公認審判員規程の改定

鈴木競技運営委員長より、資料に基づき説明があり、「公認審判員規程」の改定が承認された。

【改定箇所】

公認審判員の処分

第8条 公認審判員として登録会員規程第2条に抵触した者は同規程第17条により登録会員処分規程に定められた処分の対象となる。

10. 公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競走路規程、競技用器具検定規程の改正

高木施設用器具委員長より、資料に基づき説明があり、「公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競走路規程」、「競技用器具検定規程」の改正が承認された。

11. 栄章規程の改定

尾縣専務理事より、資料に基づき説明があり、「栄章規程」の改定が承認された。

【改定箇所】

感謝状贈呈を制定したことにより、栄章規程第2条、第17条及び栄章授与者推薦基準を改定。

12. 評議員・役員・専門委員等の旅費・謝金規程の改定

尾縣専務理事より、資料に基づき説明があり、「評議員・役員・専門委員等の旅費・謝金規程」の改定が承認された。

【改定箇所】

国内出張の旅費において、空路利用の場合、往復旅客運賃の規定を削除し、下記の通りとする。

- ・空路利用時の旅費は、領収証の提出によって金額を確定する。ただし、運賃の等級を2階級以上に区分する航空路による出張の場合は、最下級の運賃による。
- ・空路利用時の領収証は、出張時もしくは後日、持参、郵送、E-mail添付によって、本連盟事務局へ提出する。

〈報告事項〉

1. 第3回ユースオリンピック競技大会（2018／ブエノスアイレス）報告

麻場強化委員長より資料に基づき、2018年10月11日から10月16日まで、アルゼンチン・ブエノスアイレスにおいて開催された第3回ユースオリンピック競技大会で金メダル1、銀メダル1、銅メダル2を獲得したことが報告された。

2. ドーハ2019アジア陸上競技選手権大会日本代表選手選考要項の改定

（本連盟WEBサイト https://www.jaaf.or.jp/files/upload/201812/18_144738.pdf参照）

3. ドーハ2019世界陸上競技選手権大会マラソン日本代表選手選考要項の改定

（本連盟WEBサイト https://www.jaaf.or.jp/files/upload/201812/18_145238.pdf参照）

4. オーフス2019世界クロスカントリー選手権大会日本代表選手選考要項

（本連盟WEBサイト https://www.jaaf.or.jp/files/upload/201812/18_144120.pdf参照）

麻場強化委員長より資料に基づき、上記競技会の日本代表選手選考要項の改定、制定が報告された。

5. 東京2020オリンピック競技大会に向けた女子リレー特別強化プロジェクトについて

麻場強化委員長より資料に基づき、東京2020オリンピック競技大会に向けた女子リレー特別強化プロジェクトとして、公募型選抜システムとワイルドカード選抜を併用した選手選考を行うことが報告された。

6. 施設用器具委員会関係の細則の改正

高木施設用器具委員長より資料に基づき、「公認陸上競技場に関する細則」、「長距離競走路ならびに競走路公認に関する細則」、「室内陸上競技場公認に関する細則」、「屋外種目別陸上競技施設公認に関する細則」の改正が報告された。

7. 第104回日本陸上競技選手権大会マラソンの開催について

尾縣専務理事より資料に基づき、2020年の第104回日本陸上競技選手権大会マラソンとして、男子、第75回びわ湖毎日マラソン大会、女子、名古屋ウイメンズマラソン2019を開催することが報告された。

なお、非公開において、「次期評議員候補者及び次期役員候補者選定委員会委員」、「評議員選定委員会委員」の選任が承認された。また、2019年に行われる国際陸上競技連盟（IAAF）及びアジア陸上競技連盟（AAA）カOUNシルメンバー選挙について、立候補者を決定し、これに関連して、IAAFカOUNシルメンバー選挙への立候補は各国陸上競技連盟の役員であることが条件となっているため、次期の役員選任には、本連盟会長経験者に定年制を適用しないことが承認された。

資料1

第103回日本陸上競技選手権大会 参加資格

1. 参加資格

2019年度本連盟登録者で、下記の(1)から(4)のいずれかに該当し日本国籍を有する競技者(日本で生まれ育った外国籍競技者を含む)。

但し、男女の5000m、10000mでは日本選手権参加標準記録Aを満たし、参加申込のあった外国籍競技者のうち、出場資格記録の上位6名までをオープン参加として出場を認める。

- (1) 第102回日本陸上競技選手権大会の優勝者(但し、その種目に限る)。
- (2) 参加標準記録Aを突破した競技者。
- (3) 第102回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走で下記の成績を取めた競技者。

1) 男子10000m

- ① シニア男子10kmの優勝者。
- ② シニア男子10kmの第2位、第3位の競技者で、男子10000mの参加標準記録Bを満たした競技者。

2) 女子5000m/女子10000m

- ① シニア女子8kmの優勝者(但し、女子5000m又は女子10000mのどちらか1種目に限る)。
- ② シニア女子8kmの第2位、第3位の競技者で、女子5000m又は女子10000mの参加標準記録Bを満たした競技者(但し、参加標準記録を満たした種目に限る)。

- (4) 2019年度の地域選手権が、2019年5月27日までに開催された場合は、各種目3位以内に入賞した競技者で、参加標準記録Bを満たした競技者。

開催されていない場合は、2018年度の地域選手権各種目3位以内に入賞した競技者で、参加標準記録Bを満たした競技者。

- ・本連盟強化委員会が特に推薦する本連盟登録競技者。
- ・開催陸上競技協会が推薦し、本連盟強化委員会が承認する競技者。

2. 参加標準記録

下記参照

3. 参加標準記録有効期間

記録の有効期間は、男女10000m以外は2018年1月1日～2019年5月27日まで。

男女10000mについては、調整中。

4. その他

- (1) 室内競技会の記録も有効とする。
- (2) 800m(含ハードル)までの記録は電気時計(写真判定装置)で計測したもののみ有効とする。
- (3) エントリー数の関係で競技運営上困難が生じた場合は、上記の参加資格を有する競技者であっても参加を制限されることがある。その場合、上記参加資格に記載される(1)～(4)を優先順位として出場者を決定する。
- (4) 男女10000mについては、上記の参加資格を有する競技者で男女各30名に満たなかった場合、参加標準記録に達しなかった参加標準記録有効期間の記録上位者から追加する場合がある。

第103回日本陸上競技選手権大会 参加標準記録

男子		種目	女子	
A	B		A	B
10"40	10"50	100m	11"80	11"85
20"80	20"95	200m	24"10	24"20
46"60	46"85	400m	54"80	55"10
1'49"80	1'50"30	800m	2'08"80	2'09"80
3'45"00	3'46"50	1500m	4'21"50	4'23"00
13'43"00 (3000m:7'55"00)	13'52"00	5000m	15'40"00	15'50"00
28'20"00	28'45"00	10000m	32'30"00	33'00"00
13"95	14"10	110mH/100mH	13"70	13"80
50"30	50"50	400mH	59"00	59"30
8'50"00	8'55"00	3000mSC	10'25"00	10'35"00
2m17	2m15	走高跳	1m76	1m73
5m30	5m25	棒高跳	3m90	3m85
7m75	7m70	走幅跳	6m10	6m05
15m90	15m80	三段跳	12m70	12m55
16m70	16m20	砲丸投	14m70	14m40
51m50	50m50	円盤投	47m00	46m00
64m00	62m50	ハンマー投	57m50	56m00
75m00	74m00	やり投	54m50	53m50

資料2

第103回日本陸上競技選手権大会・混成競技 参加資格

1. 参加資格

2019年度本連盟登録競技者で、次の(1)から(3)のいずれかに該当し、日本国籍を有する競技者(日本で生まれ育った外国籍を有する競技者を含む)。

- (1) 第102回日本陸上競技選手権大会・混成競技優勝者。
- (2) 参加標準記録Aを突破した競技者。
- (3) 2019年度の地域選手権が2019年●月●日までに開催された場合、各種目3位以内に入賞した競技者で、参加標準記録Bを満たした競技者。

開催されていない場合は2018年度の地域選手権各種目3位以内に入賞した競技者で、参加標準記録Bを満たした競技者。

- ・本連盟強化委員会が特に推薦する本連盟登録競技者。
- ・開催陸上競技協会が推薦し、本連盟強化委員会が承認する競技者。

2. 参加標準記録

- (1) 男子十種競技 A 7050点 B 6950点
- (2) 女子七種競技 A 5000点 B 4900点

3. 参加標準記録有効期間

(1) 記録の有効期間は2018年1月1日～2019年●月●日まで。

4. その他

- (1) 公認記録は、競技規則第260条27を満たすものとする。[第260条27一部抜粋: 風速を計測する種目においては、平均秒速(個々の種目で計測された風速を合計し、これを種目数でわったもの)は、2mを超えてはならない。]
- (2) エントリー数の関係で競技運営上困難が生じた場合は、上記の参加資格を有する競技者であっても参加を制限されることがある。その場合、上記参加資格に記載される(1)～(3)を優先順位として出場者を決定する。

※~~~~~の部分は調整中

第215回国際陸上競技連盟(IAAF)及び第90回アジア陸上競技連盟(AAA)カOUNCIL会議報告

会長 横川 浩

第215回国際陸上競技連盟カOUNCIL会議(2018年12月3日～4日)がモナコで、第90回アジア陸上競技連盟カOUNCIL会議(2018年11月24日)がフィリピン・マニラで開催されたので、IAAFカOUNCILメンバーとして参加した。

IAAFカOUNCIL会議の冒頭では、新CEOのポストに、Jon Ridgeon氏(英国)が2019年3月から就任する事が決定した。同氏の陸上界との繋がり深く、110mHの元英国記録保持者としてオリンピックや世界選手権で活躍した実績があるが、スポーツビジネスの世界でも、大会組織運営やマーケティングでの手腕が高く評価されている。英国陸連の活性化やダイヤモンドリーグの発展に大きく貢献しており、今後のIAAFでのリーダーシップに期待がかかる。同会議の概要は以下の通りである。

1. ロシア問題

ルネ・アンデルセン調査団長から報告が行われ、次の二つの条件が満たされる迄は、資格停止処分を継続すると決定した。条件として挙げられたのは、AIU(Athletics Integrity Unit)がモスクワ検査所に保管されているデータの提供を受け、LIMSデータベースにある選手の違反の有無を特定できることと、作業部会の調査に要した経費や、スポーツ仲裁裁判所(CAS)への訴訟費用などの支払いをIAAFに対して速やかに行うことである。

2. 2023年世界陸上競技選手権大会開催地

世界室内陸上競技選手権大会の開催2回(1989年、2004年)、ヨーロッパ選手権の開催2回(1966年、1998年)といったトップレベルの国際競技会運営の実績がある、ハンガリー・ブダペストでの開催が決定した。本大会に向けて、新たな競技場がドナウ川沿いに建設されており、40000人を収容できるこの舞台は、世界選手権開催後も客席数を15000席として、陸上の聖地として残す。今回は2017年2月に新たな開催地決定方法が導入されてから初のケースであり、今後も世界選手権や世界室内の開催地の決定についてはこの方式が取られ、最終的には全てのIAAF主催大会で採用したいと考えられている。この新方式に於いては、IAAFが陸上界発展のための戦略的目標を策定し、その上で、まずはカOUNCILメンバーが最適のエリアを決定、そのエリアの開催希望都市の中からベスト評価パネルが開催都市を裁定し、カOUNCIL会議に諮るという方法が取られることになる。

3. IAAFワールドランキンングシステム

2019年1月からワールドランキンングシステムをIAAFウェブサイト上で稼働させる事が承認された。これにより、選手を初めとする全てのステークホルダーが、このシステムの仕組みに対する理解を深める事が期待される。2019年は導入期間となり、世界選手権ドーハ大会の参加基準としての採用は見送られることが決定している。2020年東京オリンピックの際には参加基準として適用するかどうかは、次回3月に予定されているカOUNCIL会議で審議する。

4. 2019年世界陸上競技選手権ドーハ大会

今大会でのワールドランキンングシステムの参加標準採用は見送られ、参加基準となる各種目の標準記録が決定された。更に、ロード種目と10000mにも参加選手のターゲットナンバーが設定され、マラソン100、20km競歩60、50km競歩男子50・女子30、10000m27と決定した。また、2019年5月に横浜で開催される世界リレーの男女4×100mR及び男女4×400mRの各上位10か国、混合4×400mRの上位12か国には世界選手権ドーハ大会への出場権が与えられる。

5. 世界リレー 2019横浜大会

日本の組織力と運営能力への大きな期待と信頼が表明され、11月には第1回目のサイトビジットが終了し、順調な準備が進んでいることが報告された。男女4×100mRと男女4×400mRの参加標準記録が承認された中、ホスト国には参加標準突破に関わらず、参加資格が与えられることも確認された。本大会では、新たな競技種目として、シャトルハードルリレーと2×2×400mリレーを導入する。4×400mRでは、9位以下のチームを対象としたBファイナルも実施する。なお、ファイナルエントリーの締切りを4月22日と通常日程より1週間前倒しする。

6. 2020年U20世界選手権ナイロビ大会

競技種目の変更になり、混合4×400mRが追加、男子の10000mの実施を見送り、男女共に5000mと3000mとなる。混成競技の最終種目ではGunderson方式が採用され、最終種目での着順が全体の順位となる。

7. 2020年東京オリンピック

東京2020の競技スケジュールについては、ロード種目の開始時間やファイナル種目のモーニングセッションでの実施について検討し、年末までにIOC及び組織委員会に提出する。尚、種目の変更期限は過ぎてはいるが、50km競歩女子の追加について、IOCに申請を行う。男子と同時レースで行い、全体の選手数は増やさない。

8. IAAF規則の変更

- ・技術委員会から提案のあったIAAF規則第163.4条(レーン侵害行為)の修正案については、世界室内バーミンガム大会での多発だけでは十分な根拠にはならないとして、技術委員会に更なる情報分析を依頼した。
- ・IAAF規則第251条と252条(マウンテンランニングとトレイルランニング)を融合し、両種目のIAAF規則へのアプローチに一貫性を持たせる。2019年1月より効力を発する。
- ・IAAF規則第170.10条が修正され、リレー種目では、競技開始後、4名の追加選手を起用することができる。
- ・Athletics Integrity Unit(AIU)は約1年半の活動を経て、手順やテクニカルな部分で、Anti-Doping Rules、Athletics Integrity Unit Rules、Athletics Integrity Unit Reporting Rules、Integrity Code of Conduct、Disciplinary Tribunal Rules、Manipulation of Sports Competition Rulesへの修正案を申請し、承認された。

9. その他

- ・筆者が委員長を務めるナショナルティ・レビュー・パネル(NRP)では、24名の申請を受け付け、18名の国籍変更に関する裁定を行った。新たな規則5条と規定の導入、NRPの立ち上げが、過去に横行していた国籍変更の乱用防止とスポーツインテグリティの向上に繋がっていると評価された。
- ・2019年IAAFワールドチャレンジサーキットに、北京と南京の2大会が追加された。
- ・国際競歩審判(IRWJレベルIII)の評価セミナーを経て、23名からなる2019年～2022年の国際競歩審判員パネルが決定した。
- ・2019年10月以降、コミッションはコンペティション、ディベロプメント、ガバナンスと従来のアスリート委員会の4つとなる事が決まっているが、コーチコミッションの存続についても、検討する。
- ・広告規定の変更により、世界選手権で着用するウェアにナショナルスポンサーのロゴを入れることが認められたが、他の国際陸連主催大会同様に事前承認を得る必要がある。

第90回アジア陸上競技連盟カOUNCIL会議 概要

1. AAAは、2019年4月に選挙を控えており、現体制での最後のカOUNCIL会議となるが、アジアに於ける陸上競技の普及と強化の将来的な展望に焦点をおき、更に結束を深め、活動を活性化させる必要性が議論された。アジア大会やコンチネンタルカップの結果を見ると、アジアの競技レベルは確実に伸びているが、更なる強化が必要であり、また、アジアには陸上を推進する環境が整っていない国もことから、サポート体制も含めて、戦略プランを策定、実施することが急務である。2019年、2020年は、ドーハ世界選手権、東京オリンピック、世界リレー横浜大会、世界室内南京大会といった主要国際競技会がアジアで開催されることは荣誉であり、成功に結び付ける事が必須である。

2. アジア大会(ジャカルタ)の実施報告に加え、来年開催される、アジア選手権(ドーハ)、世界リレー(横浜)、アジアユース選手権(香港)の準備状況について報告がされた。アジア選手権は世界選手権のテストイベントとなる。

3. AAA Development Directorにパキスタンのサルマン・バット氏が就任し、アジアの普及活動について積極的に取り組んでいるが、アジア戦略プランに沿った、普及プランを策定・実施するという課題が残っており、今後包括的な戦略と実施事項の優先順位を決定していくことが必須である。RDCセミナーの事業計画や活動方法を明確にした上で、活性化を図ると同時に、Eラーニングの積極的活用方法を検討していく。

4. IAAFが導入するポイントランキンングシステムについて、アジア諸国での理解を促進し、アジアとしての対応策を検討していく必要性が議論された。

2018年度 全国強化責任者会議

日 時：2018年12月3日（月）13時00分～17時00分

場 所：味の素ナショナルトレーニングセンター

出席者：尾縣専務理事、麻場強化委員長、河野ディレクター、山崎ディレクター、鈴木競技運営委員長、協力4団体強化担当者、都道府県陸上競技協会強化責任者

1. 挨拶（尾縣専務理事）

リオオリンピック以降の体制になってから、東京オリンピックに向けて、ゆるがない覚悟をもって様々な対策を実行している。しかし、私たちはポスト東京オリンピックを見据えなければならない。

そこで陸連は、2017JAAFビジョンに基づき、競技者育成指針を作成した。一人でも多くの子供たちが陸上競技に取り組み、途中で辞めることなく、楽しみを感じながらアスリートとして成長していけるような政策を考える。具体的には身体リテラシーの育成、種目間トランスファー、年齢区分の見直し、実施種目の見直しである。このような新しい考え方を取り入れながら、様々な策を実行していく。

新しいことをするときには抵抗が生まれ、慣れないことをするときには迷いや不安が生まれる。しかし、今やらなければ将来の陸上競技はないと考えている。私たちは強い覚悟をもって取り組んでいる。ぜひ皆さんにも将来の陸上競技を担っていくという気持ちをもってください、ご協力いただきたい。

議題

(1) 2018年度活動報告および今後の日本代表選考方針

①ジャカルタ2018アジア競技大会活動報告

麻場強化委員長より8月にジャカルタで開催された第18回アジア競技大会の活動報告があった。

- ・今年度の最重要大会として、選手に対してはコンディショニング法を含む事前研修を実施し、派遣スタッフ、村外スタッフ、日本滞在スタッフそれぞれの連携を強化するために、連携システムを構築してから現地へ向かった。
- ・結果、金メダル6個、銀メダル2個、銅メダル10個を獲得し、メダルテーブルは男子1位、女子10位であった。
- ・今後は銅メダルを金メダルに、4位、5位をメダルレベルに引き上げると共に、女子のレベルアップに取り組む。

②ナショナルカテゴリー日本代表の選考方針

河野ディレクター、山崎ディレクターより今年の成果を含めて、今後のナショナルカテゴリー強化策及び国際大会選考に関して説明があった。

③U20カテゴリー日本代表の選考方針

麻場強化委員長より、強化育成部の基本方針について説明があった。

(2) 競技者育成指針について

尾縣専務理事より概要の説明があり、山崎ディレクターより指針に基づく強化戦略の説明があった。

- ・この指針は、国際競技力の強化、ウェルネス陸上の向上の2本柱である2017JAAFビジョンを根拠に策定を始めた。
- ・実際の現場では、様々な疑問点、問題点がある。それらを根拠に基づいて対応していけるよう指針の作成を進めた。これは未完成であり、現場にいる皆さんの意見等も踏まえて良い形にし、協力して競技会の設定や、トレーニングの変化を起こすきっかけ作りを進めていきたい。
- ・この指針では、成長段階を6ステージに分け、陸上競技の在り方、取り組むべきことを記載している。既に

全国小学生陸上競技交流大会や高校選抜陸上で年齢区分の変更や種目変更により、多くの選手が全国大会を目指すきっかけや活躍する場を設定している。今後もオリンピック種目に拘らない種目設定をし、さらに大きな変革をしてきたい。

(3) 競技会での300m、300mHの実施について

山崎ディレクターより各競技会での300m、300mHの導入について、説明があった。

- ・国際競技会での400mのレースで、前半の遅れは後半に挽回することができず、国際的活躍は大きく後退している。前半からスピードを出すことが要求される。
- ・300m、300mHが行われる全国大会規模の競技会を実施し、パフォーマンス向上のみならず、ジュニア選手も挑戦することで、トランスファーにも生かしていきたい。
- ・300mHの実施にあたり、ハードルの置く位置のポイントを取らなければならない点について、施設用器具委員会から可能な限り簡単に実施ができるような方法を提案できるよう、努力したい。
- ・300mの実施は、日本GPシリーズをはじめ、今後実施を進めていく。

(4) ワールドランキング制度について

事務局より現状のワールドランキング制度の概要を説明し、山崎ディレクターより強化策の説明が行われた。

- ・強化委員会としては海外に出ていくことを進めている。国内のより良い環境下で記録を狙うよりも、海外に出て自らをアピールし、自分の名前を広め、海外の大会に招待されるような選手を目指してほしいと考えている。今ランキングテストサイトは稼働しているため、各自情報収集することは必須であり、私たちは情報収集することを選手へ促す必要がある。
- ・日本GPPで申請条件を満たしている大会は、アジアパーミットを取得してもらおうと打診している。

(5) ドーピング問題について

河野ディレクターより、2017年全日本実業団女子駅伝でのドーピング違反に関する実業団連合の対応事例をもとにドーピング防止策が説明された。

(6) 女子リレー新プロジェクトについて

山崎ディレクターより2020年東京オリンピック出場権獲得を最大目標とした女子リレー新プロジェクトの説明があった。

- ・長期的な視点で各サポート分野も取り込んだリレーの強化をしていくことに加え、各女子競技者が国際的な視野を有した高い競技者に育っていけるよう、育成を図るようにしていきたい。
- ・これまでは選考方式であったが、今後は選手自らの意思で挑み、権利を獲得しにくる公募型の選抜システムとする。
- ・セレクション後は、1～3月にリレー強化合宿、海外遠征を実施していく。選手たちとコーチ、スタッフが一つになって、目標を具体的に持って進めていく。



2018-2019ダイヤモンドアスリート認定式及び修了式 及び第1回リーダーシッププログラム報告

ダイヤモンドアスリートコーディネーター 田原陽介（環太平洋大学）

ダイヤモンドアスリートとは、2020東京オリンピックをはじめとする今後の国際大会において、活躍が期待できる次世代の競技者です。日本陸連は、選出された競技者に対してアスリートプログラムを提供し、競技的にはもちろん、豊かな人間性を持つ国際人となり、今後の日本及び国際社会の発展に寄与する人材になるためのサポートを行います。本稿では、11月28日に行われた、第5期（2018-2019）認定式、第4期（2017-2018）修了式の様子と、第1回リーダーシッププログラムの内容を報告いたします。

2018-2019ダイヤモンドアスリート認定式及び修了式

【新規】

海鋒泰輝選手（西部台千葉高3年・千葉、走幅跳・200m）、出口晴翔選手（東福岡高2年・福岡、400mH）、小林歩未選手（市立船橋高3年・福岡、100mH）

【継続】

宮本大輔選手（東洋大学1年・京都、100m・200m）、塚本ジャスティン惇平選手（城西大城西高3年・東京、100m・200m）、井本佳伸選手（東海大学1年・京都、200m・400m）、クレイアーロン 竜波選手（相洋高2年、800m）、中村健太郎選手（清風南海高2年、やり投）、高松智美ムセンビ選手（名城大1年・大阪、3000m）、藤井菜々子選手（エディオン、競歩）、長麻尋選手（国土館大1年・和歌山、やり投）

【修了】

橋岡優輝選手（日本大2年、走幅跳）、江島雅紀選手（日

本大2年、棒高跳）、池川博史選手（筑波大1年、やり投）

開会にあたって尾縣専務理事と朝原宣治ダイヤモンドアスリートプログラムマネージャーが挨拶した。

尾縣専務理事は、修了した3名を「本当に大きく育ててくれた。今後も陸上界のリーダーとして活躍していただきたい」とねぎらうと、全11名でスタートした第5期認定アスリートに向けて、「皆さんが最高に輝ける時期は違ってくる。それに向けてトレーニングに励み、記録だけではなく内面から輝く素晴らしい“ダイヤモンド”に育てほしい」と呼びかけた。

また、朝原プログラムマネージャーは、「後、2020年東京、2024年パリ、2028年ロサンゼルスとオリンピックが開催される。東京を目指す人はもちろん狙ってほしいし、まだまだ若い年代なので、その後のパリ、ロサンゼルスに向けて、自分の経験を積み重ね、ダイヤモンドのように光り輝いてほしい」と期待を寄せた。

これを受けて、第5期ダイヤモンドアスリート代表として、藤井選手が「ダイヤモンドアスリートプログラムを受けることで、私自身の競技力向上に加えて、広い視野を持った国際人としての意識を持つことができました。これは、ダイヤモンドアスリートを支えてくださっている東京マラソン財団様をはじめ、スポンサーの皆様のご支援をいただくことができたから。心から感謝申し上げます。来年には、ドーハで世界選手権が、2年後には東京オリンピックが開催されるが、ダイヤモンドアスリートのな

かから一人でも多くの選手が出場し、メダル獲得、入賞を目標に、今、活躍されている先輩方が築き上げられてきた道を、さらに前に進めていく。これからも応援よろしく願います」と、決意の言葉を述べた。

第1回リーダーシッププログラム

第1部 講演

講師：太田雄貴氏

参加者：DA認定式修了式参加10名とDA修了生、平松祐司選手（筑波大）、佐久間滉大選手（法政大）、犬塚涉



選手（順大）、北口榛花選手（日本大学）、山下潤選手（筑波大学）

東京マラソン財団スポーツレガシー事業として、全4回行われるリーダーシッププログラムの第1回は、北京オリンピックとロンドンオリンピックのメダリストであり、公益社団法人日本フェンシング連盟会長の太田雄貴氏を講師に招き、本事業運営委員の為末氏の進行のもと「国際的なアスリートを目指すには」をテーマとするトークセッションが第1部として実施された。

太田氏が自身の競技人生を振り返りながら、そのときどきで転機になった出来事や感じた事、考えたことなどを為末さんとの質疑応答の中で進行していった。要旨は、以下の4点であった。

- ①オリンピックのメダルを獲得するという事は、とても大切であった。一方で、メダルを取ってから何をしたいかのビジョンがないとその後失敗している選手も目に付く。メダルを獲得し、何を言いたいか、行いたいかを決めておくことが選手の価値を高めるのに重要である。
- ②メダルを獲得した後は、自分のやりたいことを前進させる可能性が高い時期である。ほとぼりが冷めてからでは遅いので、他分野の協力者を募れる時期に募るべき。
- ③国際競技連盟の理事やオリンピック招致の関わりによって大切だと思うことは、目の前のことに自分ならなにができるのか、そのために努力し、外から笑われても真摯な態度で向き合うことである。
- ④自分の競技の中だけでいると、何が普通で何が異常なのかがわからなくなる。外部と接点を持ち、様々な選



択肢を自分で作れるようになることが大切である。

第二部 ディスカッション

講師：朝原宣治氏

リーダーシッププログラムの第2部として、北京オリンピックメダリストで本プログラムマネージャーでもある朝原宣治氏が登壇し、為末氏と参加者の質疑応答にこたえる形で、自身の経験をもとに講話を行った。要旨は、以下の3点であった。

- ①海外を拠点に活動したことによって、視線が自然と世界に向けることができた。どこで競技をするのかではなく、どうやって競技を行うかであって、そのことで競技者としての幅が広がった。
- ②選手が成長して活躍するパターンには多様で、海外で成長する選手もいれば日本で力をつけて活躍する選手もいる。試してみることも大事だが、いつ記録をだして輝きたいかを見極めて、それに合わせて自分の成長を信じることも大事であった。
- ③自分がうまくいっていない時に、問題の本質をよく考えることが必要である。好き・嫌だけではなく、本質を考え何が問題かをクリアにしてから他者に手伝いを求めると解決することも多い。



国際陸連 (IAAF) Motor Learning and controlling in Athletics seminar 参加報告

普及育成委員会 普及政策部 森健一

国際陸上競技連盟 (IAAF) の地域発展センター北京 (RDC Beijing) が主催する Motor Learning and controlling in Athletics seminar に参加した。以下、報告である。

1. 研修名：Motor Learning and controlling in Athletics
2. 期日：2018年11月19日～21日 (21日は午前中のみ)
午前セッション：8時30分～11時30分
午後セッション：15時00分～17時40分
3. 場所：中国、首都体育学院
4. 主催者：IAAF RDC Beijing
5. 講師：張英波 (Mr. ZHANG Yingbo、北京体育大学教授)
6. 参加者：各国陸連派遣による参加者は、中国3名、韓国1名、モンゴル1名、台湾2名、香港1名、北朝鮮2名、日本1名 (森健一) の合計11名に加えて、自主参加や北京体育大学および首都体育学院の大学院生などが参加した。

7. セミナーの概要

セミナーはすべて講義形式で行われた。実技指導に関する内容については、張先生が指導している映像を用いて説明が行われた。Motor Learning and Controlling in Athletics seminar の内容は、IAAFとして初めて取り扱う講習テーマとのことである。セミナータイトルにもあるように、「動作学習」と「コントロール」が重要なワードであった。そして、その動作学習とコントロールにおいて重要な役割を持つ「神経系」と「正確性」(動作の正しさ)を中心に講義が行われた。

Motor Learning and controlling は、陸上競技に特化したトレーニング方法論ではなく、また、他のスポーツに対してもその競技のためのトレーニングという意味ではなく、各競技の専門的動作に影響する基本的動作のトレーニングであり、その重要性を再三にわたり講義された。そして、日々のトレーニングにおいて重要なこととして、動作に対して筋と脳の神経接続が根幹にあり、身体を正確にかつ速く動かすことに主眼が置かれるべきであるとのことであった。この速さ

については、脳のトレーニングでもあり、年間を通して速さを求めた動きづくりが重要であること、コーディネーショントレーニングなどで鍛錬される巧緻性も脳と筋(身体)の神経接続のトレーニングを行っていることを理解して行うことが必要であるとの見解であった。

また、他の重要なワードとして「回復」についても多くの時間を割いて説明が行われた。現在のトレーニングスケジュールにおいて、特に年間試合数が多くなっている競技者においては、ピリオダイゼーション(期分け)がなくなりつつあり、毎日のトレーニングの中で如何に回復を考えてトレーニングできるかが重要になること、1日のトレーニングの中においても回復から考慮したトレーニングプランを立てることの重要性が説明された。そして、動作の正確性についても、障害予防に焦点が当てられた内容が紹介された。重い負荷で行うよりも、より正しい動作で行わなければ効果が得られないこと、競技生命を短くしてしまう可能性が生じることからその重要性が説かれた。

Motor Learning and controlling は他競技、特に球技系スポーツにおいてその考えが進んでおり、陸上競技も積極的に取り入れるべきであると感じた。実技の映像は、実際に張先生が指導した中国の女子バレーボールチームやヨットの選手が行っている映像であったが、非常に興味深い様々な取り組みがなされていた。陸上競技においては、IAAFが提唱している Kids' Athletics のプログラムの1つである Formula 1 などに代表されるように、幼少期から様々な動作をゲーム的要素を含み楽しみながら行うことが重要であることを再認識し、実施することが求められると考えられる。

最後に、本セミナーに参加する機会をいただいた日本陸上競技連盟関係各位と RDC Beijing で講師を務められた張先生、通訳の李先生(北京体育大学)、首都体育学院の関係者、セミナーに参加された各国の先生方へこの場をお借りして深く感謝申し上げます。



講義の様子



講師の張先生に質問



講師の張先生と

IAAF世界リレー 2019横浜大会 IAAF視察報告

日本陸連事務局

IAAF世界リレーの2019年大会は、5月にバハマでの開催が予定されていたが、財政面による理由により開催権を返上。国際陸上競技連盟(IAAF)は短期間での準備が可能な代替地を探していたが、日本陸連が大会受け入れを表明。横浜市の日産スタジアムで、2019年5月11日(土)～12日(日)に開催されることが10月に公式発表された。横浜での開催決定を受け、2018年11月17日(土)～20日(火)、IAAF視察団が来日、第1回サイトビジット(現地視察)が実施された。通常、IAAF主催大会には、数年の準備期間があり、競技やメディア、中継、マーケティングなど部門ごとに異なる日程で複数回、現地視察を実施するのだが、今回は、本番まで6か月と迫っていることから、すべての担当者が一同に会することとなった。

【IAAF世界リレーとは】

IAAFが主催するリレー競走だけを行う国際競技会であり、陸上競技の普及と新分野のマーケット拡大を目的に2014年に新設。IAAFが国際競技会を新設したのは、1999年の世界ユース陸上競技選手権大会以来15年振りであり、競技会の価値はIAAF主催競技会の中でもトップクラスに位置付けられる。

2019年は第4回大会となり、2014年の第1回、2015年の第2回、2017年の第3回までは、バハマの首都ナッソーで行われ、第2回大会以降は隔年(奇数年)開催であり、上位チームは当該年の世界陸上競技選手権大会への出場権を得られる。

【過去の実施規模(エントリー実績)】

回数	期日	実施種目数	参加国数	参加人数	開催地
第1回	2014年5月24日～5月25日	10	43	576	バハマ
第2回	2015年5月2日～5月3日	10	43	669	バハマ
第3回	2017年4月22日～4月23日	9	35	509	バハマ

【日本開催の意義】

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開幕まで約1年前の日本での国際競技会の開催は、東京2020に向けて全国で盛り上がるスポーツの機運を醸成させる。

日本のリレー競走は、2016年リオデジャネイロオリンピックで銀メダル、2017年ロンドン世界選手権で銅メダルを獲得し、東京2020のメダル有望種目である。また、日本人にとって、リレー競走は小学校の運動会から馴染みがあるものであり、陸上競技への国民の関心を高めるには絶好の機会となる。

2019年の本大会は、ドーハ2019世界選手権大会(2019年9月27日～10月6日)への出場権対象競技会と位置づけられており、ドーハの結果で東京2020の出場権を獲得することができると、日本開催は地元開催という動因により競技力向上に繋がる。

【実施種目】

前回、バハマ大会では、つぎの種目が実施された。

4×100mリレー(男子、女子)、4×200mリレー(男子、女子)、
4×400mリレー(男子、女子、男女混合)、4×800mリレー(男子、女子)
計9種目(男子4種目、女子4種目、男女混合1種目)

今回、サイトビジットでの競技を経て、12月のIAAF理事会で実際種目がつぎのように決定した。

4×100mリレー(男子、女子)、4×200mリレー(男子、女子)、
4×400mリレー(男子、女子、男女混合)、
2×2×400mリレー(男女混合)、シャトルハードルリレー(男女混合)
計9種目(男子3種目、女子3種目、男女混合3種目)

このうち、男女混合の2×2×400mリレーとシャトルハードルは、日本で馴染みのない種目だが、今回のサイトビジットでIAAFから映像も利用して詳細な解説があった。

2×2×400mは、世界記録が公認される種目ではないが、400mの走力だけでなく、持久力も必要となるため800mや1500mなどを専門とする競技者にも参加のチャンスがあるため、中距離種目が人気な北欧では頻繁に実施されているという。

シャトルハードルも世界記録が公認される種目ではないが、アメリカなど北米では、「ハードル」のリレーとして人気がある。ただし北米では、通常、男子110mの往復、女子100mの往復で実施されており、男女混合として実施されるのは、IAAFによれば恐らく世界初。競技実施方法は最終調整中となっている。

【視察メンバー】

- ・IAAF
ジョバニ・カルドナ：技術代表
ポール・ハーディー：IAAF競技・イベント部長
このほか、競技責任者、医事責任者、メディア責任者、中継責任者、マーケティング責任者、IT責任者などあわせて22名
- ・日本陸連ほか
日本陸連、横川会長、尾縣専務理事、神奈川陸協、橘川会長、吉田専務理事以下、各部門の担当者25名。設営会社、宿泊輸送会社など関係者10数名。

【視察の日程】

今回の視察は、つぎの日程で実施された。

17日(土)

- 事前協議(日本陸連事務局・東京)
横浜へ移動

18日(日)

- スタジアム視察(日産スタジアム・横浜)
 - ・全体動線確認
 - ・部門別諸室、仮設物など確認
- 全体ミーティング(市内ホテル・横浜)
 - ・IAAFによる大会概要の詳細説明
- スタジアム視察(日産スタジアム・横浜)
 - ・テレビ中継のための夜間照明確認

19日(月)

- 部門別ミーティング(市内ホテル・横浜)
 - ・競技及びイベントプレゼンテーション
 - ・メディア対応
 - ・宿泊輸送
 - ・マーケティング
 - ・コミュニケーション
 - ・テレビ中継
 - ・アクレディテーション及びセキュリティー
 - ・入国査証
 - ・ボランティア
 - ・IT
 - ・テクニカルサプライヤー
 - ・チケット
- ホテル視察(市内複数ホテル・横浜)
 - ・チーム用ホテル
 - ・IAAF関係者用ホテル
 - ・メディア用ホテル
 - ・サプライヤー用ホテル など

20日(火)

- スタジアム視察(日産スタジアム・横浜)
 - ・チケット販売用座席確認

【横浜大会の魅力】

世界リレーは、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を1年後に控えた日本陸連にとっては好都合であり、2020年を担当する競技役員が国際競技会に慣れるための絶好の機会ともなる。

しかし、今回の視察で、IAAFが繰り返し強調したのは、世界リレーはIAAFが主催する競技会ではあるものの、世界選手権とは異なり、新しいことに挑戦できるイベントである、ということであった。世界選手権には、世界ナンバー1を決める大会としての魅力はあるが、伝統的な陸上競技の枠組みが最大限に尊重される。一方、世界リレーは、陸上競技の枠から飛び出して、リレーの面白さを、陸上ファンだけでなく一般の人たちにもアピールできる場になるとIAAFは期待している。新しい種目の創設もそうした挑戦のひとつである。また、スタジアムで、実施されるのは、競技会ではなく、エンターテインメントであると競技会演出(イベントプレゼンテーション)の責任者は語っている。これまでリオ五輪やロンドン世界陸上も担当してきた演出責任者は、最新の技術や技法を駆使した横浜だからこそ実現可能な斬新な演出を計画中大という。

今回の視察で、IAAFから明確な指針が示されたことで、大会成功に向けた準備が本格的に始動した。次回、視察は2019年3月に予定されている。

「JAAF アスレティックス・アワード 2018 報告」

事務局

2018年12月17日(月)日本陸連の年間表彰セレモニー「JAAF アスレティックス・アワード2018」を開催いたしました。

本表彰式は、その年の日本選手権優勝者の栄誉を称えるとともに、国内外の大会での活躍が顕著であった競技者や陸上競技を通じて社会に貢献した競技者・関係者を表彰するもので、今年で12回目を迎えました。

当日は、選手57名と日ごろから陸上競技界をご支援いただいているスポンサー各社、関係者の方々、そしてファンの皆さまもご招待し、約260名様にご出席を賜り、受賞者をお祝いするとともに、ご出席者同士での交流を深められておりました。



〈受賞者一覧〉

■ Athlete Of The Year

- ・大迫 傑 (Nike)
男子マラソン日本記録樹立／2時間5分50秒

■ 優秀選手賞

- ・井上 大仁 (MHPS)
ジャカルタ2018アジア競技大会 男子マラソン 金メダル
- ・山本 聖途 (トヨタ自動車)
ジャカルタ2018アジア競技大会 男子棒高跳 金メダル
- ・池田 向希 (東洋大学)
第28回世界競歩チーム選手権 (2018／太倉) 男子
20km競歩 金メダル／団体 金メダル

■ 新人賞

- ・小池 祐貴 (住友電工) /
東京運動記者クラブ選出 男子
ジャカルタ2018アジア競技大会 男子200m 金メダル
- ・松田 瑞生 (ダイハツ) /
東京運動記者クラブ選出 女子
第37回大阪国際女子マラソン大会優勝 (初マラソン
日本歴代3位)
- ・橋岡 優輝 (日本大学) / 日本陸上競技連盟選出
第17回U20世界陸上競技選手権大会 男子走幅跳 金メダル

■ 特別賞

- ・一般社団法人日本実業団陸上競技連合
実業団マラソン特別強化プロジェクト: Project
EXCEEDを通じて、日本マラソン界のみならず、ひい
ては陸上競技に対する社会的関心を高める。

■ 日本グランプリシリーズチャンピオン

- (男子) 山縣 亮太 (セイコー)
100m シリーズポイント 2457.2 (GPPポイント
1233.0 + GPポイント1224.2)
- (女子) 山ノ内 みなみ (京セラ)
5000m シリーズポイント 2354.0 (GPPポイント
1182.0 + GPポイント1172.0)



ファン投票1位山縣選手、3位の松田選手、日本陸上競技連盟アスリート委員会の金丸祐三さん(大塚製薬)が盾を授与

「アスレティックス・アワード2018」各受賞者コメント、動画、ファン投票TOP10などは
日本陸連公式WEBサイトをご覧ください!

<http://www.jaaf.or.jp/> 又は、 **アスレティックス・アワード2018** **検索**

施設用器具委員会報告 (2018-2)

施設用器具委員会

◆2018年度に公認した競技場及び長距離競走路

(2018.07.19～2018.11.28)

- 9551 札幌(ハ) 北海道五輪通～真駒内セキスイハイムスタジアム
▽21km0975 10km 自転車計測 循環(一部往復) 継続
2018.08.18～2023.08.17
- 9552 美山(陸) 新潟県糸魚川市大字大野65の1
第3種(条件付) 400m 全天候 継続 2018.08.01～2023.07.31
- 9553 大町市(運)(陸)付属(長) 長野県大町市(運)(陸)
▽42km195 21km0975 10哩 10m 自転車計測 往復 継続
2018.08.01～2023.07.31
- 9954 宮崎県総合(運)第三(競) 宮崎県宮崎市大字熊野1443の12
第3種(条件付) 400m 全天候 継続 2018.09.01～2023.08.31
- 9555 グランドチャンピオンシップ(長) 東京都明治神宮外苑いちょう並木
コード番号 137560 ◆42.195km 自転車計測 往復 新設
2018.09.01～2023.08.31
- 9556 神宮外苑絵画館(20km歩) 東京都明治神宮外苑周回路～聖徳記念絵画館西側交差点
◆20km 10km 5km 自転車計測 周回 継続
2018.09.01～2023.08.31
- 9557 新宿シティ(ハ) 東京都神宮球場バックスクリーン側入口前
～明治神宮野球場内▽21km0975 10km 自転車計測 周回
継続 2018.11.19～2023.11.18
- 9558 能登和倉万葉の里(長) 湯っ足りパーク前～和倉温泉観光会館前
▽42km195 自転車計測 循環 継続 2018.08.01～2023.07.31
- 9559 六甲アイランド(10km) 六甲アイランド高等学校南～六甲アイランドマリンパーク駐車場前
コード番号 287390 ▽10km 自転車計測 循環 新設
2018.09.30～2023.09.29
- 9560 萩・石見空港 鳥根県万葉公園入口交差点前
▽21km0975 自転車計測 循環 継続
2018.10.01～2023.09.30
- 9561 九州学院(陸) 熊本県熊本市中央区大江5の2の1
第4種 300m 全天候 継続 2018.09.01～2023.08.31
- 9562 熊本甲佐(10哩) 神奈川県相模原市ギオンスタジアム
▽10哩 10km 5km 自転車計測 周回 継続
2018.05.01～2023.04.30
- 9563 青島太平洋(長) 宮崎県総合(運)サンマリノスタジアム外周路
▽42km195 自転車計測 往復 継続 2018.09.10～2023.09.09
- 9564 加世田(運)(陸) 鹿児島県南さつま市加世田武田18100
第4種(条件付) 400m 全天候 継続 2018.09.01～2023.08.31
- 9565 名護市(陸)付帯(ハ) 沖縄県名護市(陸)
▽21km0975 10km 自転車計測 循環 継続
2018.10.05～2023.10.04
- 9566 とかち帯広の森(ハ) 北海道藤丸百貨店～帯広市中央公園
▽21km0975 自転車計測 往復 継続 2017.10.31～2022.10.30
- 9567 FTVふくしま(長) 福島県信夫ヶ丘(競)
▽42km195 自転車計測 往復 継続 2018.11.01～2023.10.31
- 9568 石岡市(運)(陸) 茨城県石岡市南台3の34の1
第3種(条件付) 400m 全天候 継続 2018.10.01～2023.09.30
- 9569 栃木県総合(運)(陸) 栃木県川原田町760
第2種 400m 全天候 継続 2018.09.03～2023.09.02
- 9570 東京都板橋区立新河岸(陸) 東京都板橋区新河岸3の1の3
第4種 250m 全天候 継続 2018.09.01～2023.08.31
- 9571 立川シティ(ハ) 東京都陸上自衛隊立川駐屯地滑走路南側
～国営昭和記念公園みんなの原っぱ脇南側
◆21km0975 自転車計測 循環(一部周回) 継続
2018.11.21～2023.11.20
- 9572 国営昭和記念公園(ハ) 東京都陸上自衛隊立川駐屯地滑走路南側
～国営昭和記念公園みんなの原っぱ脇南側
コード番号 137570 ◆21km0975 自転車計測
循環(一部周回) 新設 2018.09.01～2023.08.31
- 9573 MINATOシティ(ハ) 東京都芝公園停留所前～東京タワー駐車場内
コード番号 137580 ▽21km0975 自転車計測 往復 新設
2018.09.03～2023.09.02
- 9574 伊丹市立伊丹スポーツセンター(陸) 兵庫県伊丹市鴻池1の1の1
第4種(条件付) 400m 土質 継続 2018.10.01～2023.09.30
- 9575 加西市立善防中学校(陸) 兵庫県加西市両月町484の2
第4種 200m 土質 継続 2018.10.10～2023.10.09
- 9576 さわかみ湖山池(ハ) 鳥取県県立布施総合(運)(陸)
▽21km0975 10km 5km 自転車計測 往復 継続
2018.09.01～2023.08.31
- 9577 大田市立第二中学校(陸) 鳥根県大田市久手町刺鹿522の1
第4種 300m 土質 継続 2018.09.10～2023.09.09
- 9578 いぶすき菜の花(長) 鹿児島県菜の花館～市営(陸)
42km195 ワイヤ計測 循環 継続 2018.09.19～2023.09.18
- 9579 世田谷246(ハ) 東京都駒沢オリンピック公園(陸)
◆21km0975 自転車計測 循環 継続 2018.10.01～2023.09.30
- 9580 渋川市総合公園(陸) 群馬県渋川市渋川4272
コード番号 103130 第3種 400m 全天候 新設
2018.09.30～2023.09.29
- 9581 前橋・渋川シティ(長) 群馬県ヤマダグリーンロード前橋南道路～
東道路 ▽42km195 自転車計測 循環 継続
2018.10.01～2023.09.30
- 9582 佐倉市公認(長) 千葉県岩名(運)(陸)
▽42km195 10km 自転車計測 循環 継続
2018.12.01～2023.11.30
- 9583 舎人公園(陸) 東京都足立区舎人公園1の1
第3種 400m 全天候 継続 2018.10.10～2023.10.09
- 9584 慶応義塾大学日吉(陸) 神奈川県横浜市港北区日吉4の1の1
第4種 400m 全天候 継続 2018.09.20～2023.09.19
- 9585 小野市大池総合公園(陸) 兵庫県小野市王子町字新林917の1
第4種(条件付) 300m 土質 継続 2018.10.01～2023.09.30
- 9586 鳥取県立布施総合(運)補助(競) 鳥取県鳥取市布施146の1
第3種 400m 全天候 継続 2018.12.23～2018.12.22
- 9587 国営昭和記念公園マスターズ(ハ) 東京都国営昭和記念公園うんどう広場横～うんどう広場内
▽21km0975 10km 自転車計測 周回 継続
2018.10.01～2023.09.30
- 9588 綾瀬市民スポーツセンター屋外運動場(陸) 神奈川県綾瀬市深谷上3の6の1
コード番号 144060
第4種 400m 全天候 新設 2018.10.01～2023.09.30
- 9589 宮崎県総合(運)(陸) 宮崎県宮崎市大字熊野1443の12
第1種(条件付) 400m 全天候 継続 2018.10.01～2023.09.30
- 9590 森山総合公園(陸) 岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根森山32の1
第3種 400m 全天候 継続 2018.11.10～2023.11.09
- 9591 白石川緑地(陸) 岩手県白石市字中河原地内
第4種(条件付) 400m 一部全天候 継続
2018.10.01～2023.09.30
- 9592 ながい山の港町(長) 山形県長井市(陸)
◆42km195 21km0975 自転車計測 循環 継続
2018.09.30～2023.09.29
- 9593 燕(ハ) 新潟県大河津分水さくら公園
▽21km0975 自転車計測 循環(一部往復) 新設
コード番号 167210 2018.04.12～2023.04.11
- 9594 黒部名水(長) 富山県黒部市総合公園
▽42km195 自転車計測 往復 継続 2018.11.20～2023.11.19

9595	福知山(長)	京都府福知山三段池公園	▽42km195	自転車計測	往復	継続	2018.10.01～2023.09.30
9596	福知山(5km)	京都府福知山三段池公園	コード番号 267160	▽5km	自転車計測	周回	新設 2018.10.01～2023.09.30
9597	嘉穂(長)	福岡県嘉穂(陸)	▽42km195	21km0975	自転車計測	往復	継続 2018.11.01～2023.10.31
9598	芦別市(陸)	北海道芦別市上芦別6	なまこ山総合(運)内	第3種(条件付)	400m	全天候	継続 2018.11.01～2023.10.31
9599	浜中(運)(陸)	北海道留萌市浜中町	第4種(条件付)	400m	一部全天候	継続	2018.10.05～2023.10.04
9600	仙台国際(ハ)	宮城県弘進ゴムアスレートパーク仙台	コード番号 047160	◆21km0975	自転車計測	往復	新設 2018.11.01～2023.10.31
9601	国宝松江城(長)	鳥根県松江市総合体育館前	コード番号 327160	▽42km195	自転車計測	片道	新設 2018.11.01～2023.10.31
9602	日南つわぶき(ハ)	宮崎県日南総合(運)入口～日南総合(運)(陸)	21km0975	ワイヤー計測	循環	継続	2018.11.11～2023.11.10
9603	おおいた(ハ)	大分県大分市菅(陸)	▽21km0975	10km	自転車計測	往復	継続 2019.01.01～2023.12.31
9604	環太平洋大学(陸)	岡山県東区瀬戸町観音寺721	第4種	300m	全天候	継続	2018.10.22～2023.10.21
9039-投	秋田県営(陸)付帯投てき場	秋田県秋田市山王4の1の1	投てき場				2018.11.01～2023.10.31
9605	七尾市城山(陸)	石川県七尾市後島町後島山部4の5	第3種	400m	全天候	継続	2018.11.03～2023.11.02
9606	国営昭和記念公園パークラン(ハ)	東京都国営昭和記念公園内イチョウ橋～イチョウ並木	コード番号 137590	▽21km0975	10km	自転車計測	周回 新設 2018.11.30～2023.11.29
9607	大山町名和総合(運)(陸)	鳥取県西伯郡大山町名和1247の1	コード番号 314020	第4種(降格)	400m	全天候	継続 2018.06.01～2023.05.31
9608	福岡(長)	福岡県天神町交差点付近～糸島市交流プラザ志摩館前	▽42km195	自転車計測	片道	継続	2018.12.01～2023.11.30
9609	浦添市(陸)	沖縄県浦添市仲間1の13の1	第3種(条件付)	400m	全天候	継続	2018.07.01～2023.06.30

◆検定延期が承認されている競技場及び長距離競走路

(2018.11.28 現在)

[北海道]	紋別市(運)(陸)	第4種	400m	2018.08.14～2019.08.13
[福島]	福島大学(陸)	第4種	400m	2018.06.01～2019.05.31
[群馬]	群馬県営補助	第3種	400m	2019.01.10～2019.03.31
[埼玉]	小江戸川越(ハ)	21km	0975	2018.12.10～2019.11.24
[千葉]	富津臨海(陸)-申一	第3種	400m	2018.08.01～2019.07.31
[神奈川]	日産フィールド小机(競)	第3種	400m	2018.06.15～2019.03.31
[神奈川]	海老名(運)(陸)	第3種	400m	2018.01.27～2019.01.25
[長野]	菅平高原スポーツランド(陸)	第3種	400m	2018.10.10～2018.12.28
[長野]	長野(長)	42km	195	2018.11.01～2018.12.31
[滋賀]	栗東市野洲川(運)(陸)	第4種	400m	2018.09.01～2019.08.31
[鳥根]	まつえレディース(ハ)	21km	0975	2018.10.01～2019.02.28
[福岡]	福岡県立久留米市スポーツセンター(陸)	第2種	400m	2018.07.30～2019.07.29
[鹿児島]	ランニング桜島(ハ)	21km	0975	2019.03.01～2019.11.30
[沖縄]	名護市(陸)	第3種	400m	2018.10.05～2019.10.04

◆公認が廃止となった競技場及び長距離競走路

(2018.07.19～2018.11.28)

[北海道]	日本北端「稚内ノシヤップ」(長)	42km195	2018.09.14限り
[宮城]	仙台国際(ハ)	21km0975	2018.09.29限り
[山形]	南陽さわやか(ハ)	21km0975	2018.08.31限り
[茨城]	土浦市川口(運)(陸)	第4種	400m 2018.07.15限り
[千葉]	銚子半島(ハ)	21km0975	2018.06.20限り
[千葉]	富津(ハ)	21km0975	2018.08.31限り
[東京]	味の素ナショナルトレーニングセンター陸上トレーニング場	第4種	400m 2018.09.19限り
[東京]	神宮外苑・絵画館周回歩道(10km)	10km	2018.08.31限り
[神奈川]	湘南国際(長)	42km195	2018.10.09限り
[山梨]	南アルプス桃源郷(ハ)	21km0975	2018.10.17限り
[新潟]	胎内市(20km)	20km	2018.08.31限り
[富山]	入善町中央公園(陸)	第4種	400m 2018.08.22限り
[福井]	坂井市古城(ハ)	21km0975	2018.07.15限り
[三重]	東員町スポーツ公園(陸)	第3種	400m 2017.10.15限り
[三重]	東員町スポーツ公園(陸)付属(10km)	10km	2017.11.14限り
[鳥根]	松江玉造(ハ)	21km0975	2018.08.31限り
[鳥根]	くにびき(ハ)	21km0975	2018.09.20限り
[岡山]	美咲町棚原星の里(長)	42km195	2018.10.30限り
[佐賀]	公認祐徳(ハ)	21km0975	2018.12.26限り
[熊本]	熊本県立熊本工業高等学校(陸)	第4種	300m 2018.07.23限り
[鹿児島]	龍郷(長)	42km195	2018.09.30限り

◆種別変更のあった競技場

(2018.07.19～2018.11.28)

[鳥取]	大山町名和総合(運)(陸)	第3種	⇒ 第4種(降格)
------	---------------	-----	-----------

◆名称変更のあった競技場及び長距離競走路

(2018.07.19～2018.11.28)

[山形]	長井市(陸)	⇒ 光洋精機アスリートフィールド長井
[兵庫]	公益財団伊丹スポーツセンター(陸)	⇒ 伊丹市伊丹スポーツセンター(陸)
[山口]	(仮)愛宕山運動施設(陸)	⇒ 55フィールド(ゴーフールド)

◆新設の競技場及び長距離競走路

(2018.07.19～2018.11.28)

[宮城]	仙台国際(ハ)	◆21km0975	2018.11.01～
[群馬]	渋川市総合公園(陸)	◎第3種	400m 2018.09.30～
[東京]	国営昭和記念公園(ハ)	◆21km0975	2018.09.01～
[東京]	MINTOシテイ(ハ)	▽21km0975	2018.09.03～
[東京]	グランドチャンピオンシップ(長)	◆42km195	2018.09.01～
[東京]	国営昭和記念公園パークラン(ハ)	▽21km0975	2018.11.30～
[神奈川]	綾瀬市民スポーツセンター屋外運動場(陸)	◎第4種	400m 2018.10.01～
[新潟]	燕(ハ)	▽21km0975	2018.11.01～
[京都]	福知山(5km)	▽5km	2018.11.01～
[兵庫]	六甲アイランド(10km)	▽10km	2018.09.30～
[鳥根]	国宝松江城(長)	▽42km195	2018.11.01～

大会観戦ガイド

第38回大阪国際女子マラソン大会

兼 ドーハ2019世界陸上競技選手権大会日本代表選手選考競技会
兼 マラソングランドチャンピオンシップシリーズ2018-2019
～東京2020オリンピック日本代表選手選考競技会～

- ▼日時：2019年1月27日（日）12時10分スタート
- ▼会場（スタート・フィニッシュ）：
大阪・ヤンマースタジアム長居
大阪市東住吉区長居公園1-1 TEL：06-6691-2500
- ▼コース：ヤンマースタジアム長居～昭和町～今川2～
大池橋～勝山4～森ノ宮～OBP～北浜～大阪市役所
～御堂筋・道頓堀橋南詰折り返し～淀屋橋～片町～大
阪城公園～森ノ宮～勝山4～大池橋～今川2～昭和町
～ヤンマースタジアム長居（42.195km）
- ▼アクセス：ヤンマースタジアム長居
市営地下鉄御堂筋線「長居」駅、
JR阪和線「長居」駅または「鶴ヶ丘」駅下車
- ▼テレビ放送予定：関西テレビ系（全国ネット）
1月27日（日）12時00分～14時55分
- ▼問合せ先：大阪国際女子マラソン大会事務局
TEL：06-6633-9632
- ▼大会公式サイト：<http://www.osaka-marathon.jp>



昨年度の大会の様子

2019日本室内陸上競技大阪大会

- ▼期日：2019年2月2日（土）9時30分競技開始
2月3日（日）9時30分競技開始
- ▼会場：大阪・大阪城ホール
大阪市中央区大阪城3-1 TEL：06-6941-0345
- ▼アクセス：JR大阪環状線大阪城公園駅下車徒歩5分
- ▼競技種目：
【2月2日（土）】
U16の部
男子 60m 60mYH（914mm）走幅跳
女子 60m 60m中学H（762mm・8.0m）走幅跳
U18の部
男子 60m 60mJH（991mm）棒高跳 走幅跳
女子 60m 60mYH（762mm・8.5m）走幅跳
U20の部
男子 60mJH（991mm）
女子 60mH（838mm・8.5m）棒高跳 三段跳
【2月3日（日）】
U20の部
男子 60m 走高跳 棒高跳 走幅跳 三段跳
女子 60m 走高跳 走幅跳
小学生の部
男子 60m（オープン競技 5・6年生共通）
女子 60m（オープン競技 5・6年生共通）
※参加申込み人数によっては、競技種目の実施日を変
更する場合があります。
- ▼問合せ先：大阪陸上競技協会 TEL：06-6697-8899
- ▼日本陸連WEB内大会ページ：
<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1307/>



昨年度の大会の様子

事務局からのお知らせ

◆◆日本陸連ファン投票「Most Impressive Athlete 2018」結果のお知らせ◆◆

「2018年あなたの“最高!”選手は誰だ!?”というテーマにて今回もファン投票を実施。3599票の応募をいただきありがとうございました。今回もTOP 3をご紹介します。

- 第1位 山縣亮太 (セイコー)
- 第2位 大迫傑 (Nike)
- 第3位 松田瑞生 (ダイハツ)

その他の結果とTOP 3のコメントはこちらでご確認ください。
<https://www.jaaf.or.jp/news/article/12292/>



◆◆メールマガジン配信中!◆◆

日本陸連公式メールマガジンを好評配信中です。
登録は<https://www.jaaf.or.jp/mailmagazine/>か、右のQRコードから!



陸連時報編集委員

◇編集委員

- 横川 浩 (陸連会長)
- 友永 義治 (陸連副会長)
- 八木 雅夫 (陸連副会長)
- 尾縣 貢 (陸連専務理事)
- 麻場 一徳 (陸連強化委員長)
- 風間 明 (陸連事務局長)
- 高橋 克実 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

- 大嶋 康弘
- ◇時報編集担当
- 繁田 進
- 石塚 浩
- 青木 和浩
- 宮田 宏
- 廣瀬 静香

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>